

ご坊さんだより

第50号

発行所:桑名別院
発行人:長澤隆司

2026年

2月

わたくし、桑名別院の「報恩講」を厳修いたしました。
来る12月20日～23日までの三晩夜（4日間）に

【ご報告】桑名別院報恩講厳修

長年、桑名別院報恩講の御満座（最終日）にて「法話」
いただき、桑名別院を大切にしてくださった池田勇諦
氏が昨年6月にお亡くなりになりました。真宗本廟で
の御正忌報恩講に向けた宗務総長のメッセージを
お借りいたしますと、「親鸞聖人はもとより、池田先生
のこの恩に応えるためにも、如来のおはたらきを感じ
ことのできる報恩講としたい。」そんな思いでお迎え
した報恩講。このたび、御伝鈔拝読のお役を拝命しま
した私（編集担当）も持てる力を出し切らしました。
このたびも例年ど
おり多くの方にご参詣、
またご奉仕をいたしました。
先人からつながる願い
が、力強くひとつの方と
して目に見えるような
報恩講でありました。



つながるいのち、つながるねがい。



12月20日

宗祖のご恩徳を偲び
ご生涯を伝承する



内陣出仕（3月の慶讃法要への出仕予定者等）▲

三重教区合唱団「ひかり」他 ▲

12月20日 来る3月1日

に厳修予定の「みんな
で歌う慶讃法要」（松阪
市）の同様の次第にて
お勤めしました。

音楽法要



12月21日

御伝鈔拝読



【荆刀の儀】▲

【下巻拝読】鈴木 勘吾氏（准堂衆）▲

12月23日 午前9時より

大谷浩之鍵役執行のものと
「帰敬式」が行われ、参加
者6名はお釋迦様の「釋」
の字が冠せられた法名を
いただき、新たな仏弟子
となりました。

帰敬式

報恩講 法話

人身受け難し、いますぐに聞く。
仏法聞き難し、いますぐに聞く。

12月20日

宮部 渡氏

大阪教区第15組 西稱寺住職

初日、二日目と雨天になり、お参りを躊躇した方もいると思います。しかし、とても難しい確率で人の身として生を受けた私たちは（煩惱によつて聞き難くもあるが）命の願いを聞くこと、仏法の「醍醐味」を味わうことができる。ただし、次の息が吸えるか分からぬ一息の命を生きる私たちである。だからこそ、「火の中を分けても法は聞くべきに、雨風雪はもののかずかは」「仏法の事は、いそげ、いそげ」ということを蓮如上人も強く述べられた（伝承）。

12月20日

柳野 明仁氏

岡崎教区第11組本澄寺住職

昨年に続き、宗祖のご生涯について、中でもこのたびは主に宗祖が大切にいたがれた聖徳太子、仏教がいかに日本に伝來したかについての「絵解き」をいただきました。

いつか畠の縁なんかでも転ぶ時期が来ることを我人生の延長上に分かれる。それを「ひっくり返る」という。しかし日頃は転ばぬ先の杖を求めておる。聖徳太子の「和を以て貴しと為す」という「和」に遭遇い、背中を押され、法然上人に遭遇した親鸞聖人の「ただ念佛」南無阿彌陀仏。それは、転んで初めて、我二本の足を支え続ける大地に、私が生きておるんじやなくて、生かされておりました、と頭が下がることである。そんな縁を頂戴しておるのでなかろうか。

12月21日

蒲池 勢至氏

元同朋大学特任教授／同名古屋教区長善寺前住職

「親鸞聖人讃仰講演会」（三）重県真宗教学学会共催では、蒲池先生より、「親鸞聖人の葬送一小さなお葬式だったか」という講題にて、御講演いただきました。

具体的には不明ですが、親鸞聖人の葬儀は俗にいう「小さなお葬式」であつた可能性が高いです。しかし、その後弟子が拾骨をし、多くの者が思いを馳せた。その死者を敬う信敬の姿をみたとき、果たして現代はどうでしょうか。お骨になつた死者の尊厳性を守れないものは、今生きている自分の尊厳性も守れない。そう、この頃思います。



12月22日

武井 弥弘氏

京都教区石東組明覺寺住職
(元桑名別院輪番)

念仏は灯台のようなもの。迷える自覚あれば、行く先が分かる。ただし、次に助かることばかりにとらわれれば、昔話のように化かされることもあるでしよう。どこまでも自分の居場所がはつきりせねばならんことが仏教なのです。そのうえで、どこに向かうのか。極楽浄土に生まれるならば、それは仏の願いの世界であり、今度は諸仏となつて働く。「輪廻転生」「追善供養」の必要な世界。亡くなつた人を亡者ではなく、仏様として、そこから大事なことが働きかけられているといたぐ世界。そこが信心の問題であり、証明するのが念仏である。「報恩講」そのものは供養の儀式である。尊敬の念をもつて御礼を言い、そこにちゃんと念仏をさせていただきましょう。

12月23日

尾畠 文正氏

元弁組泉稱寺前住職
元同朋大学学長
同朋大学名誉教授

人間は誰もが死ぬ、ならば生きる意味は何か。仏教は死んでからの話ではなくて、生きているこの身を明らかにさせてくださる教えであること。

人間は誰もが死ぬ、なぜ生きる意味は何か。家族や友人の死によって、その御教化にあずかる中で、善知識（善き人）に遇う中で、誰もが仏様になるんだと、すべての人を仏様としていただかせてもらう教え（浄土真宗）をいたぐようになりました。

お金を基準（資本主義）にすれば原発をつくり、敵でもない敵をつくつては戦争をし、自ら地獄餓鬼畜生の世界をつくつて苦悩するものに、人間であることを回復させる世界（国）として法藏菩薩が建立された世界が浄土です。つまり浄土を真実の要（かなめ）、依り処、基準として生きるとは、そこではじめて人間を回復していくということです。「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」という願いがお念仏です。その仏様の呼びかけに呼応するとき、安穏を目指す生き方が決まってくるのです。

晨朝後の法話や法要前の「挨拶で

は、桑名別院責任役員の方々より、報恩講をお迎えするにあたつての思い



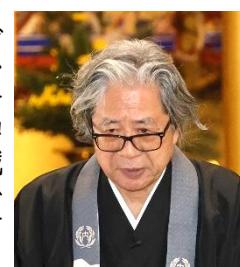
片山 寛隆氏

伊藤たね子氏



別院輪番

員辨 晓氏



とともに つくる

報恩講をお迎えするにあたり、多くの方々に事前準備にお集いいただきました。中でも「お斎」は、担い手不足等の課題もあるなか、牧野行良氏（お斎方代表）、荒木智哉氏（朝日町西光寺住職／元別院職員）を中心に様々な検討いただいております。

お斎の内容
▼ お斎づくりの様子

お餅づくり
▼ お華束づくり

次は慶讃法要

この度の報恩講は、来る教区・別院慶讃法要に向けてのお待ち受けともなることを願い、日程中、慶讃法要をお迎えする意義や内容について、委員の方よりお伝えいただきました。

三重教区慶讃事業推進委員会
参拝儀式部会 主査 高木 彩氏



何十年、何百年、脈々と受け継がれる報恩講。元職員・列座の方にご加勢いただいております。
写真【左】本年度講師控室にて【右】元桑名別院輪番の武井弥弘氏と当時職員（25年前）▲



参る人も、支える人も みんなで勤める報恩講

「報恩講」へのご参詣、ご参勤、ご奉仕を賜り、おかげさまをもちまして本年度も別院報恩講を無事厳修できましたこと、厚く御礼申し上げます。

本年来る「慶讃法要」、並びに次年度「報恩講」に向けて、またおひとりおひとりが本願念佛の御教えを生活の依りどころとした、「知恩報徳」の一年を歩まれますよう念じ申し上げます。

【音響設営・写真提供】
桑名別院責任役員
員辨 晓氏
(員弁組圓光寺住職)



2月の行事予定



法話(又は講演)のご案内



法要(お勤め)のご案内



◇ 人生講座 会費 500円

2月1日(日) 7:00 ~ 8:00

講師 池田 徹氏

(桑名市 西恩寺 住職)

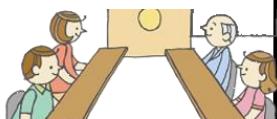
※ 3月の人生講座は慶讚法要と重なるため、
中止とさせていただきます。

◇ 同朋の会 【正信偈のことばにふれる㉑】

2月6日(金) 13:00~15:00 会費 500円

講師 長澤 隆司

(桑名別院 輪番)



※ 毎月第一金曜日開講。

※ 次回 4月3日 (3月はお休みです)

◇ 桑名別院法話のつどい

※ 慶讚法要の予行と重なるため、
中止とさせていただきます。

◇ 親鸞聖人御命日のつどい

※ 慶讚法要前日準備のため、
中止とさせていただきます。

◇ 晨朝法話

毎朝 7:00 からの勤行後

法話 別院列座 (13日、28日の御命日は輪番)

三重教区・桑名別院 宗祖親鸞聖人御誕生
八百五十年・立教開宗八百年 慶讚事業 並びに
慶讚法要への御参加・御参詣をお待ちしております。



★ 人と生まれたことの意味を考える いのちのフォーラム

2月18日(水) 19:00~20:30 [オンライン可能]

松阪会場 (第1回) : 悲しみと共に生きるには

講師: 真城 義麿 (愛媛県善照寺住職)

会場: 松阪公民館 (イオンタウン松阪船江2階) 受講料・申込必要

★ 終活サポート講座 【第3回(全3回)】

2月21日(土) 14:00~16:00

会場: 訳縁寺 (津市)

受講料: 2,000円 (全3回分)

★ みんなで歌う慶讚法要に向けた リハーサル

① 2月13日(金) 14:00~16:00 ② 2月20日(金) 13:00~16:00

会場: クラギ文化ホール (松阪市)

会場: 桑名別院

【みんなで歌う慶讚法要】 2026年3月1日(日)
クラギ文化ホール (松阪市)

【家族でつどう 慶讚法要】 2026年5月3日(日/祝)
桑名別院



真宗大谷派 (東本願寺)
桑名別院 本統寺

住所 ▶ 〒511-0073 三重県桑名市北寺町47番地
寺務所の開閉時間 ▶ 平日(土日祝以外) 9:00~17:00
TEL ▶ (0594)-22-0652 FAX ▶ (0594)-22-0681
メール ▶ kuwanabetsuin@gmail.com

